

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

専門教育科目 / 2 単位 / TS 授業

担当教員 川崎順子 日田剛 三宮基裕 清水径子 兒崎友美

※添削とスクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新 社会福祉士養成講座第 8 巻 ソーシャルワーク実習指導・実習（社会専門）」 中央法規出版
◆参考テキスト	・社団法人 日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版 ・新日本法規『社会福祉六法』（最新版）

講義概要・一般目標

ソーシャルワーク実習指導の目標は、①ソーシャルワーク実習（以下、現場実習）の意義について理解する
②現場実習に係る個人指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する（DP3）③社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する（DP7）④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する（DP6）となります。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲでは、現場実習で実際に体験した活動内容について振り返り（DP6・7）を行います。まず、実習前に掲げていた実習課題についてどの程度達成できたのか、課題達成に対する考察を実習報告書（DP6）にまとめます。次に、スクーリングでは、現場実習を履修した学生同士や担当教員とともに、実習における学習成果を共有し学びを深めます。この振り返りの作業を通して、自分の実習した施設や分野以外の状況を学ぶとともに、今後の自分の目標とする社会福祉士像に向けての学習課題を明確にしていきます（DP7）。これは、卒業後の進路選択の一助となることでしょう。現場実習で体験したことをいかに深く洞察するかによって、現場実習の成果は大きく変化していきます。

到達目標

- 1) 実習の振り返りを行い、実習課題の達成状況を整理することができる。
- 2) 援助関係の形成状況を振り返り、自己課題が明確に説明できる。
- 3) 実習を踏まえて、専門知識・技術を体系化して説明できる。
- 4) 実習の総括を行い、報告書にまとめることができる。
- 5) 実習状況の相互発表、指導者からの評価を受け、自己評価できる。

実務経験のある教員による教育

実務経験（社会福祉士等）のある担当教員による実践に即した指導をおこなう。

評価方法

T 部分：提出物「実習報告書」により評価。

S 部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

第5章 実習後の学習 第2節 事後学習の目的と方法

実習を振り返り、実習前に掲げた実習課題がどこまで達成できたのか、実習での学びを客観的に理解し、実習課題の達成状況や課題を意識化し、実習報告書にまとめていく。

「実習報告書」記載内容

1) 実習施設の概要

実習施設は、どのような理念に基づき、事業を実施しているのか、その施設の特徴等について、4行程度にまとめる。

2) 実習内容

実際に実施した実習内容を明確にかつポイントを整理して6行程度にまとめる。

3) 実習での学び

実習全体を通して、実習では何を学ぶことができたのか、ソーシャルワーカーのあり方等新たな気づきや今後の自己課題をまとめる。

第5章 実習後の学習 第3節 実習成果の報告

実習を通して「うまくいったこと」や「うまくいかなかったこと」などを振り返り、学びと気づき深め、ソーシャルワーカーになるために求められる資質や価値、知識、技術のあり方について整理して発表する。

*スクーリングでは、実習の活動内容を振り返り考察していく。振り返りシートを用い、グループで意見を出し合い、実習成果をまとめる。その成果を発表し合い、学びや気づきの共有をはかり総括していく。